


氏名・職名	村松 昇 教授	
キーワード	新規の果樹・野菜の栽培 ICT活用 植物工場	
ホームページ	http://www.fp.yamanashi.ac.jp/hsc/	
所属学会	園芸学会	
研究者から一言	<p>企業へのPR</p> <p>私は、これまで農林水産省傘下の研究型の独立行政法人にて果樹の栽培研究を中心に行ってきました。</p> <p>最近農業も農産物の販売だけでなく、加工(2次産業)、販売(3次産業)を含めた6次産業化が叫ばれています。</p> <p>これまでの経験を活かして、新規に農業法人等を立ち上げようとしている方、異業種から参入されて農業法人や植物工場を始められた方、あるいは、農業資材などを扱っておられる業者の方に何らかのお役にたてれば幸いです。</p>	

1. 新たな果樹や野菜の栽培

新たな果樹として現在は、ザクロの栽培研究を行っています。

甲斐八珍果と言という言葉をご存知でしょうか？江戸時代の甲斐国(今の山梨県)の代表的な果実(モモ、柿、ナシ、銀杏、ザクロ、クリ(またはクルミ)、リンゴ、ブドウ)という意味です。

現在でも山梨ではブドウやモモをはじめ果物の生産が盛んですが、ザクロは庭木はあるものの、商業生産はほとんどされていません。そこで、現在は、ザクロを商業栽培できるように取り組んでいます。

このように新たな果樹・野菜を発掘して商業栽培できるように取り組んでいきたいと考えています。



ザクロの花



ザクロの果実

2.農業におけるICT活用の模索

最近インターネット等の普及に伴って、ICT (information and communication technology)が、いろいろな場面で利用されています。農業においてもICTを利用して、従来の勘と経験に頼るとか、経営上経費を明らかにして従来のいわゆる「どんぶり勘定」から脱却しようとする試みがあります。

現在のところ、ICTと一口に言っても色々な手法があるので、農家や農業指導者、あるいは消費者が知りたい情報がどのようなことかニーズを把握し、それに対応したデータの取得の種類や方法を検討しています。

3.植物工場における野菜などの栽培

近年植物工場が盛んになってきました。植物工場には、太陽の光を利用する太陽光型と、すべて光源を人工光で賄う完全閉鎖型、および両者を組み合わせた併用型があります。

このうち、人工光型は初期投資も大きいし、販路の問題もあり、なかなか採算に乗せるのは難しい部分もあります。そこで、できるだけコストダウンする手法の開発を行っていきたいと考えています。

適用できる製品・分野のイメージ

- ・果樹や野菜の種苗など
- ・農業におけるICTを活用を考えている農業法人
- ・植物工場を使った葉菜類など
- ・水耕栽培に用いるフィルムや制御用の機械・装置
- ・灌水装置など農業生産資材
- ・植物体の状態を判断するための計測センサー

シーズについてのお問合せ、ご相談先
E-mail: renkei-as@yamanashi.ac.jp
Tel: 055-220-8758 Fax: 055-220-8757

